

ホームページへの掲載	
7月31日	掲載予定

岐阜県立恵那高等学校

学校長 額額 康雄
学校住所 岐阜県恵那市大井町1023番地1 電話 0573-26-1311

- 1 会議の名称 恵那高等学校評議員会 (第1回)
- 2 会議の構成
- | | | |
|----|-------|----------------|
| 委員 | 鈴木 素子 | 鈴木素子司法書士事務所 |
| | 高木 應浩 | 東栄製紙工業株式会社 社長 |
| | 長嶋 俊之 | 地域住民、元県立高等学校校長 |
| | 西山 隆志 | 恵那高等学校PTA会長 |
| | 蜂谷 明子 | 蜂谷医院 小児科医師 |
- (委員名は五十音順)
- | | | |
|-----|-------|--------|
| 学校側 | 額額 康雄 | 校長 |
| | 高橋 俊和 | 教頭 |
| | 渡辺 昭夫 | 事務部長 |
| | 足立 幸司 | 教務主任 |
| | 磯部 徹 | 生徒指導部長 |
| | 高橋 清仁 | 進路指導部長 |
| | 佐々木俊哉 | 理数科部長 |
- 3 会議の目的 学校運営について、地域住民や関係諸機関の代表者から幅広く意見を聞き学校改善を図り、地域全体からの支援・協力を得て、愛され信頼される開かれた学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催 令和元年 7月 5日(金) 13:30~15:40 恵那高等学校会議室
委員5人と学校側7人が出席
- 5 会議の概要 学校長より挨拶、出席者紹介の後、学校長より本校の教育方針、現在の取組等を中心に学校説明プレゼンテーションを行い、授業見学、施設・設備等の見学を行った。その後、令和元年度学校経営計画(マニフェスト)、教務部、生徒指導部、進路指導部、探究理数科部より令和元年度の教育活動の概要等について説明し、各委員の方々からの意見聴取及び意見交換を行った。

(1) テーマ 学校概要説明

学 校 長 生徒は毎日充実した生活を送っており、職員も本当に献身的にきめ細かく生徒を指導している。今年度の春の入試では、全体数としては定員ちょうどであったが、理数科については県下最高の倍率となった。これは恵那高校の最大の特徴であるSSHの諸活動また探究活動が評価されていることの表れではないかと考えられる。

本校の探究的な学習活動は、以前から県下でも高い評価を得ており、今後の高大接続改革に十分対応した内容になっていると考えている。普通科では、総合的な探究の時間において、生徒の興味・関心に基づき、進路に関連付けた課題探究を実施している。また理数科は、これまでの実績が評価され、文部科学省からSSHが4期目3年目を継続し、深い学びを続けている。

それに加え、地域に根差した教育活動に対し、理解が深まりつつあり、地元の支援が広がっている。今年度も更に充実させた活動を継続していきたい。そうした恵那高校の教育活動が生徒一人ひとりの幸せな人生につながると考えている。

校則については、本校は以前からほとんどないに等しいが、それでも校外での活動を

見直すなど行っている。学校評議員の方々や地域の方々の意見も聞きながら、更に改良を進めたいと考えている。

学校経営計画 「教育指導の重点」より「1教科教育・進路指導の充実」では、1年生から大学入試改革に伴う新テストに対応するために、新たに保護者を対象にした進路研修会を行うなど、保護者を巻き込んだ支援を充実させ、時代の変化に応じた支援を行っている。
また普通科の「総合的な探究の時間」を利用した「生き方我が道」、理数科のSSHで取り組んでいる「探究」を通して、社会や未来に目を向け、一人一人が幸せな人生を送ることができる支援を図っている。
「2人間教育の充実」では、ボランティア活動の推進や地元を深く知る活動を続けることにより、広く地域から愛され、信頼される、開かれた学校づくりを目指している。

教 務 部 本校では「総合的な探究の時間」と「SSH」を2本柱として、生徒に思考力・判断力・表現力そして探究力を身に付けるためのカリキュラムを実践している。高大接続改革ではまさしくこの点が重要視されており、これらを更に充実させていくことが必要である。また、これらの成果として、毎年30名程度の生徒が3年間で培ったその力を発揮し、大学のAO入試や推薦入試を突破している。岐阜県高等学校進学指導連絡協議会（八校会）では、トップの合格率となっている。

令和2年度入学生から単位制導入によって、進路希望別・選択科目や特徴ある科目を展開することで現在よりさらに進路実現に向けて手厚く、興味関心のある授業展開が可能となる。

また、本校は平成14年度に学校週5日制が行われるようになったのと同時に授業時間数の確保を目的として45分×7限授業を採用した。数学、英語、国語等に十分な授業時間が当てられている。また、「45分は短い」という意識が働くため、生徒は集中して授業に取り組もうとする姿勢が見られ、教師側もチャイムと同時に授業ができる体制や、授業内容の精選及び授業改善への積極的な取り組みが行われてきた。また、生徒の進路実現のため、選択科目・進路希望別の授業を多く開講している。

一方で45分7時間とコマ数が多いため生徒にとって1日あたりの宿題の数が多く、授業進度が早いなど中学校からの移行が上手くいかず、高校の授業について行くことができず、困り感を抱いている生徒がいる点等が、恵那高校の課題の一つである。

生徒指導部 生徒指導は全ての教職員で全ての生徒に対して行うものであるというスタンスで、組織的に指導に当たっている。特に悩みを抱えた生徒、発達障害をもつ生徒の増加により外部との連携を含めた教育相談的な機能をより一層充実させていくことが重要である。

学校祭の準備は、クラス活動も体育の部の軍団活動についても、生徒たちは限られた時間の中で工夫しながら行っている。「集団や社会の一員としてよりよい学校づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的態度を育てる」という点で、本校では大きな意義があると考えている。

校則に関しては、身だしなみに係る常識的で一般的な範囲をで示しているが、その他についてはほぼ規定は存在していない。学校評議員の方々や保護者に意見を求めながらさらなる精選に努めていきたい。

進路指導部 10年後、20年後を見据えた人材育成を考えられるよう、体験的またキャリア教育的な視点を持った取り組みを充実させるよう心掛けている。また新しい入試制度に向け進路ノートの活用を充実させ、将来の社会的自立に向けたキャリア教育の推進を一層進めている。そのためのガイダンス機能等を一層充実させていく。

例年3年生は、全員が進路目標達成に向け最後までよく頑張っている。今年度の進路希望調査でも、3学年のほとんどが進学希望であり、なかでも国立大学を志望する生徒は増加しており、その志望に応える指導を展開していかなくてはならない。

様々な講座や進路学習のための行事を予定している。PTA主催の校内大学説明会は非常に好評で、今年度もオープンキャンパス以外にも大学を知る機会を増やす取り組みとして計画している。また進路指導部が主催する保護者進路研修会を年数回企画をし、生徒、保護者、教職員が情報を共有し、一体化した進路指導の充実を図っている。

探究理数科部 理数科の柱であるSSH事業は、現在4期目の指定を受け3年目を迎えている。本校は、平成16年度から、通算3期13年間SSH事業を実施してきたが、今回の指定は、これまでの実績が評価された形となる。また、16年間で本校が培ってきた取組・成果を、発信・普及を目指した活動も求められている。

これまで、研究開発課題「科学の手法」と「真の国際性」を兼ね備えた資質・能力の育成に向かって、研究活動を展開してきた。第4期は、第3期までの成果を踏まえ、課題研究と論理的思考力の育成を柱に研究開発を行うことにしている。

また、生徒の課題研究のテーマはバリエーションに富んでおり、様々な機会をとらえて校外で発表している。恵那高校ではSSH事業や研究を通じて地域、日本、世界で必要とされる資質・能力を育成すること、その原動力を恵那で身に付けて広めていける生徒を育てたいと考えている。

(2) テーマ 意見交換

- 意見 1 SSH、ボランティア活動、地域に根差した活動（田舎塾）など、様々な活動をされていることがよく分かった。生徒が自分に合うものを見つけ、考え、結果を出してほしい。
- 意見 2 今年春の高校入試では志望者が増え、恵那高校の人气がV字回復してきたことは喜ばしい。また大学入試の結果もよく、先生方がよく頑張ってくれているお陰と思う。
- 意見 3 歴史的に観ても時代が変わる時は理系が活躍している。今は節目の時代、理系の活躍に期待している。
- 意見 4 つい数年前までの恵那高校の評判は悪いものばかりだった。例えば登校時の様子を見ても今は非常によい。学習面だけでなく、生徒指導面、教育相談的な面でも、たいへん丁寧で熱心だと伝わっている。また、ミニ教育実習や田舎塾などの活動に代表される、地域を巻き込んだ取り組みは、たいへん注目されている。恵那高校が再び輝きを取り戻すだろうと期待している。
- 意見 5 制服について、恵那高校生は今の制服にプライドを持っているし、地域のステータスでもあると思う。自由化などについては、生徒から話題に挙げたら検討すればよいのではと考える。
- 意見 6 学校がたいへんきれい。また絵画もそのままの状態ですてあり、学校全体が落ち着いている印象をもった。生徒は志が高く、また保護者も意識が高い。PTA活動も積極的でたいへん協力的である。
- 意見 7 学力差の対応はとても難しい。特に発達障害系の生徒は切り替えが不得手で引きずってしまふ。時間割の編成にそうした観点での工夫をすると効果が上がると思われる。現状ではそうした生徒や不登校生徒に対する恵那高校の先生方のフォローはしっかりしている。またLGBTに代表されるマイノリティへの配慮も忘れずに行ってほしい。
- 意見 8 設備・備品の点でいくつかお願いがある。
① ICT推進で教室の黒板がホワイトボードに替わると聞いているが、色覚異常への対応を、県下統一して全教職員に周知してほしい。
② 教室の電灯が暗い。照度は適切なのか。→順次LED化していくようにしている。
③ 防災に関連して、隣の中津川市は防災都市に指定されているので、生徒個人で防災頭巾などを学校に置いているが、恵那市は指定されていないので何もない。市境で災害の規模がはっきる変わる訳ではないので、危機感をもって中津川市に準じた用意をしてほしい。
- 意見 9 ある大学の教育学部で3、4年生を教えているが、恵那の学生が少ないのがさみしい。ミニ教育実習など新しい動きがあり頼もしく思える。
- 意見 10 人間教育に力を入れていただいていることは、たいへんうれしい。本質的でコアな部分なので、今後も期待したい。

6 会議のまとめ

率直で貴重なご意見を多数頂戴し、たいへん有意義な学校評議員会となった。概ね現在恵那高校が取り組んでいる教育活動に対し好意的で期待が込められたご意見が多かった。更によくするためのご意見が多く、一つ一つが具体的な指針となるもので、このご意見を活かす方策を考え実行に移していきたいと考える。

現在本校が取り組んでいるキーワード「探究」「地域」「国際」に対し、共感をいただき、さらに深く取り組んでいく勇気と自信をいただけた評議員会であった。

また不登校の生徒への対応については、良好な評価をいただいた。更に職員の研修をはじめ、学習指導も含め、迅速で丁寧な対応を継続する。

今後は、変化が激しい社会の中でも、感性を豊かに働かせながら、よりよい人生や社会の在り方を考え、試行錯誤しながら問題を発見・解決し、新たな価値を創造していくとともに、新たな問題の発見・解決につなげていくことができるような資質や能力を育み、国や地域社会のリーダーを育成するよう、評議員の皆様をはじめ、多くの方々の意見を取り入れながら、全職員で協力し尽力していきたい。